

オーストリア・ブルゲンラント州におけるハンガリー語話者調査記録旅行誌

大島 一

国際文化資源学研究センター 客員研究員

0. 概況および調査目的

報告者の調査テーマは、オーストリア共和国ブルゲンラント州¹⁾に居住するハンガリー語話者の言語・社会的研究である。

歴史的事実から説明すると、現在のブルゲンラント州は第一次大戦のオーストリア・ハンガリー二重君主国の敗北の結果、トリアノン講和条約により、旧ハンガリー王国からオーストリア共和国に割譲された。その結果、この地に住んでいた（旧ハンガリー王国の）ハンガリー人達はマイノリティとしてオーストリア側に取り残されることになったわけである。彼らはオーストリアの国家語であるドイツ語と自身の母語であるハンガリー語の二重言語生活を送っている。

当該地において、ブルゲンラントに居住するハンガリー系住民のハンガリー語の言語・文化資料が最も充実している研究機関が、オーストリア共和国ブルゲンラント州オーバーヴァルト郡²⁾ウンターヴァルト村³⁾の「ハンガリー・メディア情報センター (Ungarisches Medien-und Informationszentrum, 以下,UMIZ と呼ぶ)」⁴⁾である。

報告者は、調査期間である2012年2月27日(月)から3月17日(土)までの間の当該2週間ほどをこちらに滞在し、当センターのケレメン・ラースロー (Kelemen László) 氏⁵⁾の助力を得て、センター所在の文献・データの収集を行った⁶⁾。

ここでの調査の主な目的は二つある。一つは当地のハンガリー語話者のハンガリー語の特徴を知るために、文献資料を集めることである。第二は当地のハンガリー系マイノリティの言語および文化を知るために、UMIZの活動をレポートすることである。すなわち、この活動記録が当地のハンガリー語話者の実態を知るためのみならず、マイノリティ文化の維持方法はここだけにとどまらず、有益であると考えられるからである。



UMIZ 建物

1. ブルゲンラント州の状況および歴史的背景

この土地の現状および歴史的背景を知るにあたり、今回の調査地までの道のりを説明することが興味深いと思われる。報告者はこれまで2度にわたり、この地にフィールド調査に来ているが、その道のりはオーストリアの首都であるウィーン (Wien) から鉄道でグラーツ (Graz, シュタイアーマルク州都) 行きに乗り、フリードベルク (Friedberg) で下車、オーバーヴァルト (Oberwart) 行きに乗り換え、オーバーヴァルトに到着するというものである⁷⁾。

グラーツ路線から乗り換えることになる、フリードベルクからオーバーヴァルトまでの路線は、第一次大戦以前はハンガリーのソンバトヘイ (Szombathely) から途中にある現ブルゲンラント州西端のピンカフェー (Pinkafő, 現ピンカフェルト)⁸⁾まで至る路線 (の一部) であった。

すなわち、この路線は第一次大戦敗北まで当時のハンガリー王国領の西端を走る鉄道であったということになる。

しかし、第一次大戦後、ブルゲンラント州がオース

トリア領となったことにより、このソンバトヘイ（ハンガリー）ーピンカフェルト（オーストリア）路線を分断する国境が生まれてしまった。

その後もこの路線を引き裂くような出来事が続く。1925年にオーストリア側ではピンカフェルトから西に路線を伸ばし、首都ウィーンからのグラーツ路線内にあるフリードベルクにまで延長した。ブルゲンラントがオーストリア領になった以上、首都ウィーンからのアクセスは急務であったことだろう。一方、ハンガリー側は、冷戦体制が深まるにつれ、1956年のハンガリー動乱後の1959年に当該路線を廃止した。

オーストリア側でもハンガリーとの国境から徐々に路線の縮小が進んでいった。そうして最後に残った路線がオーバーヴァルトまでの区間であった。それが2011年8月1日をもってオーストリア連邦鉄道はこの路線の旅客運用を廃止した（貨物は引き続き運用される）。理由は利用者減少の為。いずれにせよ、ウィー

ンから鉄道でこの地に行くことは不可能となったのである。現在、ウィーンから一日に数便の高速バスが運行されている。

一方、ハンガリー側のソンバトヘイからオーバーヴァルトに至る路線が数年後に復活するとのニュースもある⁹⁾。それが実現されれば、今度はハンガリー側から鉄道でこの地に来ることが、いつか出来るようになるかもしれない¹⁰⁾。

ちなみに、報告者の調査対象地であるブルゲンラント州、なかでも南ブルゲンラント（ピンカ川沿い）の地域については、サイト「Lebenswart」を参照のこと。こちらはいわば当地域の名所を巡るサイクリングスポットサイトをまとめたHPだが¹¹⁾、ドイツ語、ハンガリー語、クロアチア語、ロマ語の4言語で名所スポットに看板が立てられて当地の説明がある。

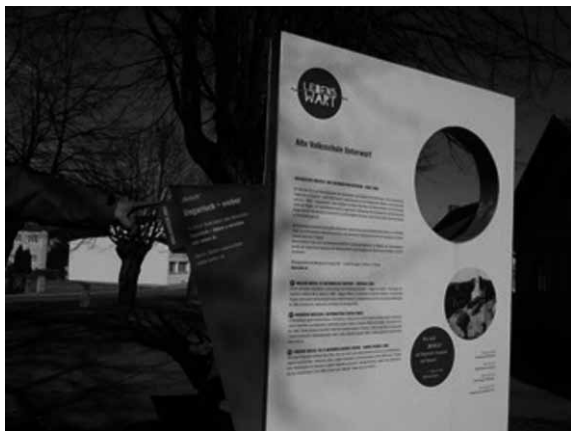
2. UMIZ について

UMIZ, すなわち、「ハンガリー・メディア情報センター」は、ブルゲンラント州ウンターヴァルトに設置のハンガリー文化やハンガリー語資料を保存する研究所である。前身は1973年に作られたウンターヴァルト・ハンガリー語図書館。その後、欧州地域開発基金 (European Regional Development Fund, ERDF) とブルゲンラント州の援助を受けて、ウンターヴァルト村役場の隣にある古い学校を利用し、2001年6月8日に開設した。2万5千冊の書籍、30の雑誌、300のCDなどを所蔵する。一階は会議・ミーティング用の部屋、二階が所蔵図書館（およびPC設置）となっている。

なお、この設立にあたっては、UMIZ 隣にあるウン



オーバーヴァルト旧駅舎



Lebenswart の名所の一つ。UMIZ の建物である古い村立学校の説明板。ハンガリー語の説明を引き出したところ



UMIZ 内二階部分



UMIZ 前のガランボシュ牧師の彫像

ターヴァルトのカトリック・ベネディクト派教会の牧師ガランボシュ・フェレンツ (Galambos Ferenc, 1920-2007) が尽力した。

実際のイベント活動に対しては、外部協力者との連携のもと、主なものとして、以下の下位組織が存在する。

2.1. 言語学部門

「イムレ・シャム言語研究所 (Imre Samu Nyelvi Intézet (ISNYI))」¹²⁾ が言語部門の下位組織として存在している。こちらは本国ハンガリーのハンガリー科学アカデミー言語学研究所 (A Magyar Tudományos Akadémia Nyelvtudományi Intézet) とも連携を図り、国境外、特にブルゲンラント、クロアチア、スロヴェニアに住むハンガリー人のハンガリー語研究のネットワークの一つとして、社会言語学、バイリンガリズム、言語接触といったテーマのもと、研究を進めている。

2.2. 文学部門

ラディチュ・イエネーネー (Radics Jenőné)¹³⁾ の主導のもと、毎年、イベント「文学の夜」を開催している。

2.3. 幼児保育教育部門

ドワシュ・カタリン (Dowas Katalin)¹⁴⁾ 主導のもと、「UMIZ for KIDS」と命名された子どもたちによる3言語（ハンガリー・ドイツ・クロアチア）での歌付き絵本シリーズを発表している。絵本はブルゲンラントの幼稚園・保育園で使用されている。

2.4. 郷土史部門

ポーシュ・フェレンツ (Pösch Ferenc) の指導のもと、



“UMIZ for KIDS”で作成された絵本。ハンガリー語、ドイツ語、クロアチア語で書かれている

オーバーヴァルト、ウンターヴァルト、シゲト・イン・デア・ヴァルト¹⁵⁾における郷土史の資料収集を行なっている。書籍、出版物のみならず、現地の古い写真や絵葉書、手書きのものなども郷土史の対象として集めている。コレクションには2,500枚もの古い写真があり、これらはウンターヴァルト郷土史博物館が保管する。

2.5. 美術部門

オットー・オストヴィチュ (Otto Osztvits) のもと、美術関係の展覧会を行なっている。毎年5から6つの展覧会が企画・実施されている。

2.6. 団体交渉部門

UMIZが他団体と共催のイベントについての交渉などを執り行う。UMIZのホームページ管理も含まれる。

3. UMIZの活動（年次報告書より）

以下、UMIZで閲覧した2011年度の「年次報告書 (Jahresbericht)」からUMIZの主な活動を示す（なお、年次によって活動の内容は異なる）。

3.1 イベント

a) 文学 ... 「文学の夜」開催

- ・3月15日：1848年3月15日の革命記念日
- ・10月23日：1956年ハンガリー動乱記念日

b) 芸術 ... 画家や彫刻家の展覧会

- ・ヴェーヌス・エルヴィン (Vénusz Erwin, 彫刻家)
- ・ヨージュヴァイネー・キシシュレーリンツ・エディ

- ト (Józsvainé Kislőrincz Edit, 画家)
- ・他, 26 人のハンガリー系芸術家による展覧会
- c) 考古学 ...UMIZ 内に展示
- d) 郷土史 ... 古写真の展示
- ・「ウンターヴァルトとキルヒシュラク, ナーライとある地域文化発展の多様性の一例, 20 世紀前半の村落生活の類似と相違」¹⁶⁾
- e) 幼児保育教育 ...“UMIZ for KIDS”の継続
- ・最新の 4 冊¹⁷⁾を出版・紹介イベント開催
- ・コマルノ (スロヴァキア)¹⁸⁾での紹介イベント
- ・ソンバトヘイ (ハンガリー)での紹介イベント
- ・他, 各所で紹介・展示
- f) 言語学 ... イムレ・シャム言語研究所
- ・「ブルゲンラント・ハンガリー語話者の言語使用の最新の調査結果から」: ハンガリー科学の日に開催
- ・「カルパチア盆地のハンガリー語と文化 (Magyar nyelv és kultúra a Kárpátmedencében)」会議開催
- ・ウンターヴァルト, オーバーヴァルト, シゲト・イン・デア・ヴァルト, オーバープレンドルフにおける方言調査の完了 (カーロイ・ガーシュパール大学 (ブダペスト) との共同調査)
- ・ハンガリー科学アカデミー言語学研究所の「国境外ハンガリー語方言リスト」の拡充

3.2. 出版物

- ・『カルパチア盆地のハンガリー語と文化 (Magyar nyelv és kultúra a Kárpátmedencében)』(同名の多言語研究会議の発表論文集)【8】



“UMIZ for KIDS”で作られた子供たちによる 3 言語での絵本発表会案内 (2012 年 3 月 16 日開催)¹⁹⁾

- ・“UMIZ for KIDS”による 3 言語絵本の „Nyuszi-Gyuszi”, „Lili, a lepke”, „Zsiga, a csiga”, „Nyári békabál”

3.3. 研究学位論文のコンサルト

- ・Németh Barbara: „A Burgenlandi magyar nyelvjárás” (ブルゲンラント・ハンガリー語方言)
- ・Domobi Dalma Martina: „Ausztia az Európai Unióban” (欧州連合におけるオーストリア)
- ・Polgár Mónika: „A Burgenlandi magyarok oktatásügye” (ブルゲンラント・ハンガリー語話者の教育問題)
- ・Reményi Glória: „Burgenlandi magyar nyelvű népcsoport és a németnyelvűek Nyugat-Magyarországon” (Diplomamunka olasz nyelven) (西部ハンガリーにおけるブルゲンラント・ハンガリー語話者とドイツ語話者, 学位論文 (伊語))

3.4. 会議・ミーティングの参加

- ・ブルゲンラント図書協会春・秋会議
- ・ハンガリー語・文化国際協会母語会議
- ・「生きている言語研究会議」, ハンガリー科学アカデミー言語学研究所主催
- ・「外国におけるハンガリー学」, ハンガリー科学アカデミー主催
- ・「情報空間 (Infotér)」, ハンガリー国会下院
- ・ユネスコ「無形文化財」のハンガリー・ユネスコ協会会議

3.5. プロジェクト関係の活動

- ・UMIZ のホームページ・ロゴデザインやイベント使用の為のプラカード作成
- ・ガール・カーロイ教授 (Gaál Károly) の遺品の未出版物のデジタル化

3.6. 共催・後援

- ・第 43 回ブルゲンラント羊飼い劇 (オーバーヴァルト・カトリック教会のアドベント・イベント)
- ・ペーチ大学による国境外ハンガリー人資料の大規模デジタル化²⁰⁾
- ・ブルゲンラント・ハンガリー文化協会 (オーバーヴァルト)主催の「ブルゲンラント州成立 90 周年」記念行事

3.7. 個人・グループのイベント・レセプション

- ・ザラエゲルセグ市 (ハンガリー) 代表団 (自治

体レベルでの文化活動共催の為)

- ・ヴァシュ県 (ハンガリー) 博物館協会
- ・サヴァリア博物館友好協会訪問
- ・カーロイ・ガーシュパール・カルヴァン派大学 (ブダペスト) 言語学専攻学生の訪問
- ・コシュート・ラヨシュ高校 (ツェグレード) の生徒訪問

3.8. ライブラリ関連

- ・国立セーチェニ図書館 (ブダペスト) 内の図書館提携プログラムに参加 (蔵書補充等)
- ・国内外図書館との図書借り出しのやりとり
- ・専門書の取得 (コレクションや古本屋から)
- ・UMIZ 開催の古本市

3.9. 電子データ処理

- ・ネットワークのメンテナンスと開発
- ・ウェブホスティング・サービス
- ・ホームページ作成

4. UMIZ の管理運営について

上記 UMIZ の活動維持にあたっては、その多くを補助金に頼っている。メインはオーストリア連邦首相府 (Bundeskanzleramt, BKA) とオーストリア教育と文化、芸術省 (Bundesministerium für Unterricht, Kunst und Kultur, BKK) の二つ。オーストリア連邦首相府からはプロジェクト資金として約 32,000 ユーロを受け、オーストリア教育と文化、芸術省からは給与対象の助成金で約 13,000 ユーロが支払われている。

また、本国ハンガリーからは、ハンガリー科学アカデミーから 3,000 ユーロ、ベトレン・ガーボル基金から 3,000 ユーロの助成金を獲得している。

自治体であるウンターヴァルトからは約 2,000 ユーロが出ており、その他、いくつかの助成金をあわせると、昨年 2011 年度の収入は約 75,000 ユーロ (約 800 万円) とのことである。

支出は人件費として約 34,000 ユーロ²¹⁾、その他はイベント関連で約 15,000 ユーロ、ホームページやサーバー管理で約 15,000 ユーロであり、残りはその他諸々で収入同様の額となり、収支は拮抗状態であり、決して楽な運営ではないようだ。

5. ハンガリー語話者およびブルゲンラント方言

ここではブルゲンラント州のハンガリー語話者の置かれた状況および彼らの話すハンガリー語、すなわち、ブルゲンラント方言の特徴について記す。

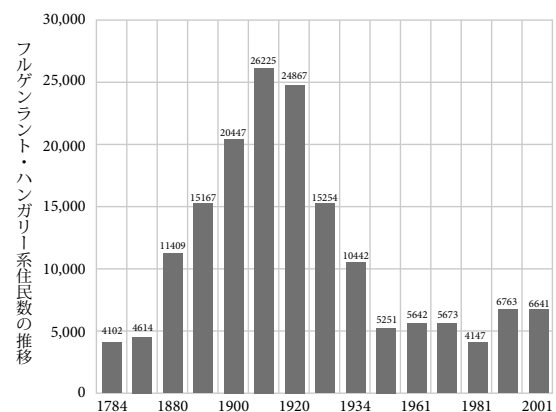
ブルゲンラント州のハンガリー語話者のハンガリー語は、ハンガリーの方言学によれば、西ハンガリー方言に含まれる。いまや、国境外のハンガリー人となってしまったブルゲンラント州のハンガリー語は、いいかえれば、最西端に位置するハンガリー語の方言である。

5.1. ハンガリー語話者の状況

記録に残っているブルゲンラントにおけるハンガリー系住民の数の推移は以下の表のとおりである。

このとおり、1910 年が最高の 26,225 人、1920 年では 24,867 人と下降が始まる。これは第一次世界大戦敗北でブルゲンラントの土地がハンガリー王国からオーストリア領に移った 1919 年と軌を一にする。

現在でもこの傾向は変わらず、報告者が 2009 年にインタビューおよびアンケート調査した結果でも、若い世代においては家庭内外を問わず、ハンガリー語ではなくドイツ語を使用するという結果が見られた【12】。UMIZ のケレメン・ラースロー氏も「この地のハンガリー語は伝統的な方言という意味では危険な状態にある」と述べているように、戦前からこの地に住み続けているハンガリー系住民の中ではハンガリー語は絶滅状態にある。絶滅から救うためにはハンガリー語話者の家庭内でどのくらいハンガリー語が話される



ブルゲンラント・ハンガリー系住民の推移²²⁾

かであろう。まさに UMIZ の活動がそれを担っているのである（幼児保育教育の“UMIZ for KIDS”による3言語での絵本出版など）。

5.2. ブルゲンラント方言の一般的特徴

音声面：

- ・狭い *ë* と広い *e* を区別する（例, *embër* 「ヒト」, *feketë* 「黒い」）²³⁾
- ・標準ハンガリー語の *ty / gy* を, *cs / dzs* で実現する（例, *bácsám* (←*bátyám* 「私の兄」), *kucsa* (←*kutya* 「犬」), *dzserék* (←*gyerek* 「子供」)
- ・標準ハンガリー語で第一音節の *é* が *i* となる（例, *szíp* (←*szép* 「美しい」), *nídzs* (←*négy* 「4」), *kík* (←*kék* 「青い」)
- ・*l* 音が消失する（例, *asztua* (←*asztal* 「机」), *rëggië* (←*reggel* 「朝」), *vuot* (←*volt* 「だった（過去）」), *füöd* (←*föld* 「土地」)
- ・標準ハンガリー語の *ly* を, *l* (もしくは *j*) で実現する（例, *mëlik* (←*melyik* 「どちら」), *petrëzselëm* (←*petrezselyem* 「パセリ」), *! ijjen* (←*ilyen* 「このような」), *oijan* (←*olyan* 「あのような」)

語彙面（うしろの括弧内が標準ハンガリー語）：

borsuo 「豆」(←*borsó* 「エンドウ豆」), *bogár* 「ハエ」(←*bogár* 「虫」), *keriék* 「自転車」(←*kerék* 「車輪」), *kuobász* 「血のソーセージ (*hurka*)」(←*kolbász* 「フランクフルトソーセージ」)

5.3. 方言レベルを逸脱する特徴：複数所有表現

本来, ある言語の標準語と方言間の関係は, 音声や語彙的差異にとどまり, 文法レベルで異なることは稀である。しかし, このブルゲンラント方言の複数所有表現は, 標準ハンガリー語の同一のものと比べて大き

な違いを見せる。

その一例が複数所有表現である。以下の表で見るとおり, ブルゲンラント方言の複数所有は, (3人称単数を除き) 標準ハンガリー語の「単数所有」の形に *-iék* が付いていることが分かる（上での音声面での特徴から, 標準ハンガリー語で *gy* が *dzs* に変化していることに注意）。

ブルゲンラント方言の複数所有の作り方は, すなわち, 単数所有の形式を複数にする（ハンガリー語の複数形のマーカーは *-k* である）という分析的解決法である。これは, 標準ハンガリー語の複数所有のマーカー (*-i*) を別に立てる方策とは大きく異なる。すなわち, (ハンガリー西部) 方言の枠を超えているとも言えよう。周囲のドイツ語からの言語接触の影響も考えられる。いずれにせよ, ブルゲンラント方言が単なるハンガリー語の一方言という存在以上の特徴を有する証拠と考えられる。

6. 滞在中のイベント

6.1. アイゼンベルクのワインの丘

3月5日(月), UMIZ 代表である Horváth Günther の好意で, ハンガリー国境にある村アイゼンベルク (*Eisenberg*)²⁴⁾ に行く。ブルゲンラント州はワインの産地としても有名であるが, 北ブルゲンラント(ノイジードラー湖近辺)では白ワインが主流であるに対して, ここ南部ブルゲンラントでは赤ワインが有名である。アイゼンベルクは村全体が葡萄畑の丘陵地であり, 数多くのワインセラーが点在, そこで上質のワインが楽しめる(ホイリゲなのでハム, ソーセージといったオー

複数所有表現の対比

	標準ハンガリー語		ブルゲンラント方言
	単数所有	複数所有	複数所有
1.sn	<i>gyerekem</i>	<i>gyerekeim</i>	<i>dzserékëmiék</i>
2.sn	<i>gyereked</i>	<i>gyerekeid</i>	<i>dzserékëdiék</i>
3.sn	<i>gyereke</i>	<i>gyerekei</i>	<i>dzserékeji</i>
1.pl	<i>gyerekünk</i>	<i>gyerekeink</i>	<i>dzserékünküiék</i>
2.pl	<i>gyereketek</i>	<i>gyerekeitek</i>	<i>dzserékëtekiék</i>
3.pl	<i>gyerekük</i>	<i>gyerekeik</i>	<i>dzserékcsëkiék</i>



アイゼンベルクの葡萄畑。すぐ向こうはハンガリー

ストリア風の様々な肉料理も供される)。

ハンガリーとの国境沿いにあるので、ドイツ語の標示に気づかないと、いつの間にかハンガリー領にいるということもある²⁵⁾。ハンガリーはワインで有名であるわけで、その文化は歴史的国境とは関わらず、こうして連綿と続いていることを伺わせる。

6.2. 地域発展自由大学「カルパチア盆地地域を紹介する—ブルゲンラント」：西ハンガリー大学経済学部²⁶⁾ (ショプロン, ハンガリー)

3月7日(水), 15時からハンガリー西部の国境の街, ショプロンにある西ハンガリー大学経済学部で「カルパチア盆地地域を紹介する—ブルゲンラント」と題された地域発展自由大学の連続講座²⁷⁾の開催にあたり, UMIZのケレメン・ラースロー氏がブルゲンラントの歴史および言語・文化の多様性に注目した発表を行った。展示としてブルゲンラントの写真や観光関係の情報, また当地の食べ物やワインなども振舞われた。

17時から自由大学の講座としてグラーツ大学で歴史学の教鞭をとるゲルハルト・バウムガルトナー (Gerhard Baumgartner) による「ブルゲンラントの歴史 (Burgenland története)」と, オーストリア・ハンガリー人協会会長のデアーク・エルネー (Deák Ernő) による「オーストリア・ハンガリー人の現在と未来像 (Az ausztriai magyarok jelene és jövőképe)」の2つの講演が行われた。

6.3. 欧州評議会地域マイノリティ言語事務局代表団へのオーストリアにおけるハンガリー語状況説明

3月8日, 欧州評議会地域マイノリティ言語に関す



講演発表の様子

る欧州憲章事務局の代表団及び専門家委員会のメンバーの前で, UMIZのケレメン・ラースロー氏がオーストリア国内におけるハンガリー語の状況および今後の発展を説明するための諮問がバート・ラドカースブルク²⁸⁾にある「パヴェル・ハウス」²⁹⁾で行われた。ケレメン氏はブルゲンラントの初等教育におけるハンガリー語教師の現状を説明し, ハンガリー語話者が多い地域であるオーバーヴァルトなどにはハンガリー語ができる教員を雇えるよう代表団および専門家委員会に訴えた。

6.4. ORF (オーストリア放送協会) ブルゲンラント支局³⁰⁾のインタビュー

3月9日, ORFのブルゲンラント支局が報告者およびUMIZについてインタビューしたいということで, UMIZにスタッフ来所。UMIZのことや報告者のハンガリー語およびブルゲンラントへの関心などについての質問に答えた³¹⁾。なお, 毎週日曜の夜に一時間ほど, ORFによるハンガリー語のラジオ放送が提供されている。

6.4. 南ブルゲンラントの名所見学

現地のハンガリー人であるサボー・ナンドル (Szabó Nándor) 氏の好意による。ブルゲンラントで最大の城が残るシュタットシュライニンク³²⁾や, カトリック教会が美しいマリアスドルフ³³⁾, 映画『イングリッシュ・ペイシエント』の主人公アルマシー伯爵が生まれたベルンシュタイン³⁴⁾など, 日本ではあまり知られていない土地であるが, 大変魅力的な場所であることを再確認した。

6.5. 詩と歌に見る「1848年革命および自由戦争」

3月15日は本国ハンガリーでは1848年の革命および自由戦争を記念する国民の祝日である。これに際し, UMIZでは3月10日(土)の16時から文学部門のラディチュ・イエネー他10名が集まり, 詩と歌の朗読会が行われた。

6.6. ブダペスト (ハンガリー) で文献収集

3月12日から16日の間, ハンガリーの首都ブダペストに滞在し, 文献収集を行った。ブルゲンラントのハンガリー語話者に関する専門的な文献は既にUMIZで収集済みだが, 昨今のハンガリー語学の現状を知るために, 専門書を多く取り扱う書店や古本屋を巡った。

ハンガリーの言語学関係の書籍や雑誌を多く取り扱っているのはアカデミア出版 (Akadémiai kiadó) だが、ここからの本を多く取り揃えていたマギステル書店は数年前に閉店してから、そうしたものを取り扱う代替書店がないのが現状であった。すなわち、専門書や雑誌を手に入れるためには、図書館でコピーするか、古本屋での偶然の邂逅を祈る他ない。実は研究者本人にアクセスして論文ファイルをメールで送ってもらったほうが早いといえる。

とりあえず、2006 年にアカデミア出版から出た『ハンガリー語』(キーフェル (編))【13】は多くの研究者によるハンガリー語総覧といったものであり、国境外ハンガリー人やブルゲンラントの言語状況にも一章が割かれており(セゲド大学(ハンガリー)のコントラ・ミクローシュ (Kontra Miklós) 執筆)、参考文献も充実している。

7. 終わりに

以上、ブルゲンラントでは実質 2 週間のフィールド調査を通して、ほぼ毎日、調査地の研究機関であるハンガリー・メディア情報センターで調査・作業を行い、各活動を紹介してくれたケレメン・ラースロー氏に感謝申し上げる。マイノリティ言語の保全活動という観点から、今回の調査で多くのものが得られたと思う。特徴ある地域方言・地域言語の研究ともあわせて、今後の研究の有効な糧としたい。

註

- 1) Burgenland は、オーストリア共和国の州の一つ。ハンガリーと国境を接する最東部にある細長い州で、1921 年、第一次世界大戦後のトリアノン条約(対ハンガリー)とサンジェルマン条約(対オーストリア)の結果、生まれた州(Land)。州都はアイゼンシュタット (Eisenstadt / Kismarton)。2001 年の国勢調査時点で人口約 27 万人のうち、ハンガリー系住民は 6,641 名(約 2.4%)。
- 2) オーバーヴァルト郡 (Bezirk Oberwart) の中心は Oberwart「オーバーヴァルト市」である。ハンガリー語名 Felsőőr という。Oberwart という名前はハンガリー語名からの借用翻訳 (felső「上」+ ő「見附」) であり、すなわち、ここがハンガリーからみて対オーストリアの前線地帯であったことが伺えるように、第一次大戦以前、現在のブルゲンラント州は、旧ハンガリー王国領であった。2001 年の国勢調査では、オーバーヴァルトの人口約 7 千人のうち、約 1 千人がハンガリー系であると申告した。なお、オーストリアの自治体は、Stadt「市」、Marktgemeinde「市場町」、Gemeinde「村」があ

る。オーバーヴァルトは「市」、以下でみるウンターヴァルトは「村」である。

- 3) 「ウンターヴァルト」Unterwart はハンガリー語名 Alsóór の意味翻訳。alsó「下」+ ő「見附」。2009 年のオーストリアの国勢調査では人口 913 人。そのうち、74%がハンガリー語話者と申告している。これは自治体で見るとオーストリア内で最もハンガリー系住民の比率が高い。
- 4) <http://www.umiz.at/> 現在、新 HP を構築中、現在はドイツ語のみ (<http://www.umiznet.com/de/>)。Facebook は、<http://www.facebook.com/umizinfo/> ちなみに、ハンガリー語では、A Magyar Média és Információs Központ という。
- 5) ハンガリー語は「姓・名」の順で綴るので、この報告書でも、ハンガリー人名はそれに従うことにする。
- 6) 正確には 2 月 28 日(火)にウンターヴァルトの隣市であるオーバーヴァルトの滞在ホテルに到着、翌日より調査研究を開始、3 月 12 日(月)まで滞在した。その後は、ウィーンを経て、ハンガリーの首都ブダペストに向かい、現在のハンガリー語研究動向を知るために、文献収集を行った。
- 7) UMIZ のあるウンターヴァルトには鉄道は通っていないため、オーバーヴァルトからバスもしくは車(または自転車)でアクセスする他ない。また、宿泊施設がウンターヴァルトにはないため、オーバーヴァルトにあるホテルかペンションに泊まることになる。報告者はケレメン・ラースロー氏に毎日車で送迎してもらった。
- 8) Pinkafeld (ハンガリー語名、Pinkafő)。同オーバーヴァルト郡に属し、「市」である。人口約 5 千人のうち、2009 年の国勢調査では 100 程度がハンガリー人と申告した。
- 9) 「vasnépe.hu」(ソンバトヘイが県庁であるヴァシュ県 (Vas megye) のニュースポータルサイト) に 2009 年 11 月掲載のニュースより。「4 年後にソンバトヘイオーバーヴァルト路線が復活か」http://vasnepe.hu/cimlapon/20091111_negy_ev_mulva_ujra_jarnak_vonatok_szombat
- 10) しかし、UMIZ のケレメン・ラースロー氏に聞いたところによると、この話は昔からよく出る話であって、「残念ながら実現には至らない。現にいま 2012 年現在でもなんの動きもない」とのことであった。
- 11) <http://www.lebenswart.at/> ブルゲンラント州、オーストリア共和国、EU によるサポートで構築。
- 12) <http://www.umiz.at/isnyi/index.html>
- 13) グラーツ音楽大学教授。
- 14) オーバーヴァルトの市立保育園の保母。
- 15) Siget in der Wart, ハンガリー語名は Órisziget という。オーバーヴァルト郡ローテントウム・アン・デア・ピンカ (Roteturm an der Pinka, ハンガリー語名は Vasvörösvár) 市場町の一部を成す村落。人口は数百人で、その殆どがハンガリー系。オーバーヴァルトから南東に 6 キロのところに位置。
- 16) キルヒシュラーグ (Kirchschlag in der Buckligen Welt) はニーダーエスターライヒ州ヴィーナー・ノイシュタット郡にある市。ナーライはハンガリーのヴァシュ県 (Vas megye) の県

序ソンバトヘイから南西に 7km に位置する国境に近い村。展覧会 („Alsóór, Kirchschatz und Nárai – egy egységes kultúrájának fejlődése sokszínűségének példái, a XX. század első fele vidéki életének közös mutatói és különbségei”) はキルヒシュラクのパンノン文化発展センターとナーライ村との共同で開催された。

- 17) „Nyuszi-Gyuszi”, „Lili, a lepke”, „Zsiga, a csiga”, „Nyári békabál” の 4 冊 („Zsiga, a csiga” は 3 ページに掲載した写真のもの)。
- 18) Komárno (ハンガリー語名, Komárom) はスロヴァキアのドナウ川沿いの町。第一次世界大戦以前までハンガリー領。人口の 6 割をハンガリー系住民が占める。現在でも町はハンガリー語標示の看板が見えたり、ハンガリー語が通じる。
- 19) “UMIZ for KIDS” シリーズの 2012 年に出版する 5 冊の記念紹介イベント告知である。
- 20) http://www.sulinet.hu/oroksegtar/data/kulhoni_magyarsag.php の「Ausztria」を参照。
- 21) 常勤スタッフはケレメン・ラースロー氏一人のみ。その他、各イベントに即したアルバイトや、PC、サーバー管理に非常勤で人を雇っている。

ちなみに、ケレメン氏は 1973 年オーバーヴァルト生まれ。父はブルゲンラント・ハンガリー人。母はハンガリーの首都ブダペストのベシュト出身。高校までブルゲンラント、大学はハンガリーのブダペストにある経済大学を卒業。その後、幾つかの企業で働き、現在、ウンターヴァルトに住み、UMIZ の活動運営の責任者。

- 22) 「UMIZ - über Uns – Ungarn im Burgenland – Demografie」
<http://www.umiznet.com/de/index.php/ueberuns/ungarn-im-burgenland/demografie>
- 23) なお、ブルゲンラント方言の冠詞は、不定冠詞が *ë / êdzs* で、定冠詞が *e / ez* となる（後者は後続の名詞が母音で始まるものの場合に使用）。例、*êdzs asszom mëg ë liány* 「一人の夫人と一人の少女」。なお、標準ハンガリー語では、不定冠詞 *egy* で、定冠詞が *a / az* である。
- 24) ハンガリー語名は Csejke という村落。正式な自治体名は、Deutsch Shützen-Eisenberg (ハンガリー語名, Németlövő-Csjske) という。1971 年に近隣である Edilitz im Burgenland(Abdalóc), Eisenberg an der Pinka(Csejke), Deutsch Shützen(Németlövő), Höll(Pokolfalu), Sankt Kathrein im Burgenland(Pószaszentkatalin) が合併して生まれた村。
- 25) 協道を入っていくと小さな掘っ立て小屋があり、そこを抜けると、ハンガリー側の Vaskeresztes である。
- 26) <http://www.ktk.nyme.hu/>
- 27) 西ハンガリー大学経済学部国際地域経済学研究所主催：http://nrgit.ktk.nyme.hu/fileadmin/dokumentumok/ktk/Intezetek_tanszekek/NRGIT/Szabadegyetem_2012_I/TFSZE_programfuzet_2012_I.pdf
- 28) Bad Radkersburg はオーストリア共和国シュタイエルマルク州にあるスロヴェニアとの国境の町。Mura 川を渡れば、そこはスロヴェニアの Gornja Radgona である（なお、シェンゲン条約加盟国同士であるから、当然、国境のコントロー

ルなどはもはや存在しない。お互いの住民は自由に、そこに国境などないかのように行き来している。

- 29) Pavel-haus / Pavlova hiša はスロヴェニア人で旧ハンガリー王国国民であったアウグスト・パヴェル (Avgust Pavel / Pável Ágoston) を記念して作られたオーストリア内のスロヴェニア文化センター。
- 30) <http://volksgruppen.orf.at/magyarok/aktualis/>
- 31) <http://volksgruppen.orf.at/magyarok/aktualis/stories/162187/>
- 32) Stadtschlaining (ハンガリー語名, Városszalónak) はオーバーヴァルト郡にある市。古城内に大学がある。
- 33) Mariasdorf (ハンガリー語名, Máriafalva)。そのカトリック教会はハンガリー語での案内もあり、ステンドグラスにはハンガリー王と聖マルトン (パンノニア (西ハンガリー) およびブルゲンラントの聖人) が見え、ハンガリー色が濃い教会であった。
- 34) Bernstein (ハンガリー語名, Borostyánkő) は琥珀の産地としても有名。

参考文献

【方言関係】

- [1] Imre Samu, 1941, A felsőőri földművelés, Debrecen. (Dolgozatok a M. Kir. Ferenc József Tudományi Intézetéből 3. sz. (Szabó T. Attila (sz.))
- [2] Imre Samu, 1942, Az É hangok állapota a felsőőri nép nyelvében, Kolozsvár. (Dolgozatok a M. Kir. Ferenc József Tudományi Intézetéből 6. sz. (Szabó T. Attila (sz.))
- [3] Imre Samu, 1943, Német kölcsönzők a felsőőri magyarság nyelvében, Kolozsvár. (Dolgozatok a M. Kir. Ferenc József Tudományi Intézetéből 13. sz. (Szabó T. Attila (sz.))
- [4] Imre Samu, 1971, A felsőőri nyelvjárás, Nyelvtudományi értekezések 72. sz., Akadémiai kiadó, Budapest.
- [5] Imre Samu, 1971, A mai magyar nyelvjárások rendszere, Akadémiai kiadó, Budapest.
- [6] Imre Samu, 1973, Felsőőri tájszótár, Akadémiai kiadó, Budapest.

【会議・総論】

- [7] Szoták Szilvia (sz.) 2010, Örvidéki magyarokról, Örvidéki magyarokrak / Über warter Ungarun, für warter ungarn, Imre Samu Nyelvi Intézet kiadványai I.
- [8] Szoták Szilvia (sz.) 2011, Magyar nyelv és kultúra a Kárpát-medencében, Imre Samu Nyelvi Intézet kiadványai II.

【UMIZ 運営状況】

- [9] Kelemen László, 2012, Einnahmen – Ausgabenübersicht UMIZ 2011, UMIZ.
- [10] Kelemen László, 2012, Az UMIZ tevékenysége, UMIZ.
- [11] Kelemen László, 2012, UMIZ Jahresbericht 2011, UMIZ.

【その他】

- [12] 大島 一 (forthcoming) 「オーストリア・ブルゲンラント州におけるハンガリー人マイノリティについて：ドイツ語

との二言語使用状況に関する調査および考察」、『ウラリカ』
No.16, ウラル学会.

[13] Kiefer Ferenc (sz.), 2006, Magyar Nyelv, Akadémiai kiadó,
Budapest.